

社会的信頼学

創刊号

原著論文

高齢者居住形態による社会的災害脆弱性指標の構成とその検討

—大阪市北区の全戸を対象とした分析から—安部美和, 与謝野有紀

コホートサイズの自殺率規定力に対する年齢効果の検討

—世代間, 世代内コンフリクトが日本の自殺率に対して与える影響の計量分析—
.....紺田広明, 与謝野有紀

研究ノート

多様な機会は信頼を育むか？

—大学生の信頼感についての調査研究—林直保子

商店街における小イベントの役割と効果

—天神橋筋三丁目商店街リサーチアトリエでの取組み—北詰恵一, 近藤史弥

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

関西大学社会的信頼システム創生センター

『社会的信頼学』投稿規程

1. 投稿者
本誌は関西大学社会的信頼システム創生センターの機関誌であり、所属を問わず随時投稿できる。
2. 著作権
本誌に掲載された論文等の著作権は社会的信頼システム創生センターに所属する。
3. 投稿原稿
投稿は社会的信頼およびその関連領域に関する原著論文、研究ノート、資料であり分野を問わない。投稿は、日本語または英語で未発表のものに限る(二重投稿は厳禁)。学術雑誌等で既に刊行された論文を『社会的信頼学』に投稿することはできない。ただし科学研究費補助金報告書や修士論文、博士論文などパブリシティの低いメディアに発表した論文やそれに修正を加えた論文を投稿することは可能である。そのような論文を投稿する際には、次の2点に留意されたい。
 - (1) 投稿時に編集委員長宛にその旨を連絡すること。
 - (2) 投稿論文が受理された場合は、その旨を注などの形で明記すること。なお、自分の執筆した論文が投稿可能か否か判断しにくい場合は、編集委員会委員長まで問い合わせること。
4. 投稿原稿の執筆
投稿の際は、執筆要項にしたがって原稿を作成すること。
5. 投稿提出
投稿原稿は1部作成し、下記の編集委員会委員長宛に送付すること。原稿は、原則としてe-mail (step@ml.kandai.jp) から投稿する。やむを得ず郵送による場合には、下記提出先に送付すること。

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 第3学舎B棟5階
関西大学社会的信頼システム創生センター
Tel/Fax 06-6368-1845
6. 投稿提出期日
随時
7. 編集
投稿の採否は編集委員会において決定する。
8. 校正
著者が自らの責任で初校校正を行う。なお、校正は編集に関わる修正(誤脱字、句読点、図表の配置、軽微な表現の訂正など)のみを対象とし、内容に関わる変更(題字、著者、キーワード、英文要旨、本文、付録)は再投稿の対象とする。

(2013/03/15 制定)

『社会的信頼学』執筆要項

1. 原稿は、横書きとし、ワードプロセッサで印字されたものとする。読みやすい印字を心がけること。投稿された原稿は返却しないため、必ず控えをとること（なお、編集事務局ではすべての機種やソフトに対応できる とは限りません。投稿ご希望の方はあらかじめ編集事務局にご相談ください。）
2. 投稿原稿は和文または英文とする。
3. 原稿 1 編の刷り上がりページ数の上限（図表、注、引用文献、要約を含む）は、原則として以下の通りとし超過分については編集事務局へ相談すること。

原著論文：	20 頁
研究ノート：	10 頁
資料：	7 頁

4. 原稿の書式は以下の原則に従うこと。
 - a. 論文、研究ノート、資料には和文題目、執筆者名、和文要約（500 字程度）、キーワード（3～5 語）を記したものを第 1 頁に書き、続いて本文、参考文献の順に記す。最後に、英文タイトル、執筆者名、英文要約（200 語程度）、英文キーワード（keywords & phrases）をつける。ただし、英文の原稿には、邦文要約は不要とする。
 - b. 原稿第 1 頁目に脚注として投稿者の所属機関を書き、最終頁（英文題目と同頁）には、投稿者の所属機関の英訳を脚注に記す。
 - c. 原稿は A4 判の用紙を使って 40 字×35 行とする。題目は 14 ポイント、アブストラクトは 10 ポイント、本文は 11 ポイントとし、脚注は 9 ポイントとする（テンプレート参照）。
 - d. 英数字はアラビア数字とし、原則として半角文字を使用する。
 - e. 章・節・項の見出しは次のようにする。

章 1. 2. 3. （ゴシック体）
節 1-1. 1-2. 2-1. 2-2.
項 1-1-1. 1-1-2. 2-1-1.

- f. 図表、注、引用文献は、原稿の該当箇所にあらかじめ挿入する。作成はすべて執筆者が行ない、図表の印刷時の仕上がりについても執筆者の責任とする。原稿はB5縮小するため、縮小したときの仕上がりを考えて、図の大きさ、濃淡、線の太さなどを決め、作成すること。その他は下記に従うこととする。
- ア) 図・表・写真の挿入は、直接行う。
- イ) 図・表・写真は、カラー印刷にするのかの指定をする（原則モノクロ）。
- ウ) 特殊な図版、表、折込、色刷り等はあらかじめ編集委員会と相談する。
- エ) 図・表・写真の番号は下の例に従い、本文中ではゴシック体で示す。図表番号のつけかたは、日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」に依拠する。
(例：Table 1, 表 1, Fig. 1, 図 1, Photo 1, 写真 1)
- g. 引用文献の参照の仕方および文献リストの形式は、日本社会学会「社会学評論スタイルガイド」(<http://www.gakkai.ne.jp/jss/bulletin/guide4.php>)に依拠すること。
- h. 注は本文中に 1) のように番号を入れ、頁末尾にまとめる。
5. 印刷の書式は編集委員会の定めるものとし、原則として著者による責任校正は1回だけ行なうものとする。ただしこの際、誤字・脱字の訂正以外は認められない。
6. その他、不明の点や、上の執筆要項に依れない事情のある方は、編集委員会事務局に相談すること。英文で投稿する場合も同じとする。

(2013/03/15 制定)

目 次

原著論文

高齢者居住形態による社会的災害脆弱性指標の構成とその検討

—大阪市北区の全戸を対象とした分析から— 安部美和, 与謝野有紀…… 1

コホートサイズの自殺率規定力に対する年齢効果の検討

—世代間, 世代内コンフリクトが日本の自殺率に対して与える影響の計量分析—
紺田広明, 与謝野有紀…… 23

研究ノート

多様な機会は信頼を育むか？

—大学生の信頼感についての調査研究— 林直保子…… 43

商店街における小イベントの役割と効果

—天神橋筋三丁目商店街リサーチアトリエでの取組み— 北詰恵一, 近藤史弥…… 53

執筆者一覧

(論文掲載順)

安部美和	関西大学社会的信頼システム創生センター・ ポスト・ドクトラル・フェロー	r118029@kansai-u.ac.jp
与謝野有紀	関西大学社会学部・教授 関西大学社会的信頼システム創生センター・ センター長	yosanoa@kansai-u.ac.jp
紺田広明	関西大学大学院心理学研究科・博士後期課程 関西大学社会的信頼システム創生センター・ リサーチアシスタント	h.konda.1204@gmail.com
林直保子	関西大学社会学部・教授 関西大学社会的信頼システム創生センター・ 副センター長	nhayashi@kansai-u.ac.jp
北詰恵一	関西大学環境都市工学部・准教授 関西大学社会的信頼システム創生センター・ 研究員	kitazume@kansai-u.ac.jp
近藤史弥	関西大学環境都市工学部 4 回生	kondo.fumiya@gmail.com

【編集委員会】

編集委員長 与謝野有紀
編集委員 林直保子 草郷孝好 安部美和

社会的信頼学

創刊号

発行日 2013年3月31日

発行 関西大学社会的信頼システム創生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号

電話 06-6368-1845

e-mail step@ml.kandai.jp

印刷 株式会社 遊文舎

Trust and Society

Vol. 1

Articles

Social Vulnerability Analysis of Households in Kita ward, Osaka

- Elucidating the Relationship between Residence Height and Elderly Demographics -

----- Miwa ABE, Arinori YOSANO

Cohort Size, Age, and Suicide Rates

- A Longitudinal Analysis of Suicide Rates by Prefecture in Japan -

----- Hiroaki KONDA, Arinori YOSANO

Notes

Does a diverse opportunity nurture trust?

- A survey study on the general trust of college students -

----- Nahoko HAYASHI

Rolls and Effects of Small-Scale Events in a Shopping Street

- in the Case of Research Atelier in Tenjinbashisuji Shopping Street -

----- Keiichi KITAZUME, Fumiya KONDO

Research Center for Social Trust and Empowerment Process (STEP),
Kansai University